

感染症科

1. 体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室と同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行っている。今年度の特徴としては、2020 年からの新型コロナウイルス・パンデミック下において引き続き、感染制御活動に対する協力体制を敷いたこと、及びスタッフによる診療体制をさらに強化して、初期研修医の院内教育および院内医師への感染症治療指導を充実させたことである。

a. スタッフ

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
丸毛 聡	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
上村 良	消化器外科・感染症科兼務	副部長
山本 健人	消化器外科・感染症科兼務	
井上 大生	呼吸器内科・感染症科兼務	副部長（Infection Control Doctor, ICD）
中島 俊樹	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
稲野 将二郎	血液内科・感染症科兼務	副部長
塚口 諒	糖尿病内分泌内科・感染症科兼務	専攻医
大沢 一希	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
辻村 敦史	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
酒井 達紘	小児科・感染症科兼務	専攻医
酒井麻里子	糖尿病内分泌内科・感染症科兼務	専攻医
杉山 純平	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
大堂真一郎	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
岩阪 晋吾	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	専攻医
羽生 敬	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
中川隆太郎	小児科・感染症科兼務	専攻医
大島 正義	血液内科・感染症科兼務	専攻医
梅田 隆志	初期研修医（SR2）	
岡部 康教	初期研修医（SR2）	
大倉千明	初期研修医（SR2）	
小田原洋一	初期研修医（SR2）	
鹿野友美夏	初期研修医（SR2）	
重田祐衣	初期研修医（SR2）	
白井良宜	初期研修医（SR2）	
田村汐里	初期研修医（SR2）	

槇田美緒 初期研修医 (SR 1)

佐竹 悠 初期研修医 (SR 1)

看護師 (専従感染管理認定看護師):

永田 万結 看護部主任

薬剤師:

上田 覚 薬剤部係長 (抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師)

高橋 有 薬剤部主任 (感染制御専門薬剤師)

小林 和博 薬剤部主任 (感染制御認定薬剤師)

臨床検査技師:

宇野 将一 臨床検査技師部副技師長

中塚 由香利 臨床検査技師部主任

小林 賢治 臨床検査技師部主任

b. 診療実績

1. 感染防止対策加算対象の院内感染症に関する取り組み

(1) 感染症治療介入

管理抗菌薬使用患者、血液培養陽性患者、重症感染症患者をリストアップし、毎週木曜日にカンファレンスを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った。令和4年度は2087件であった。(令和3年度2275件、令和2年度2496件、平成31年度2199件、平成30年度1884件、29年度2322件、28年度2126件)。

内訳:

リ膠	眼科	形外	血液	呼内	呼外	産婦	児外	耳鼻	小児
76	13	25	315	346	17	26	14	58	87

消外	消内	心外	循内	脳神外	脳神内	泌尿	腎内	整形	糖内
257	221	19	152	74	65	94	88	78	27

乳腺	皮膚	精神	腫内	救急	外来	計
7	15	0	13	0	0	2087

(2) 抗菌薬の適正使用の推進 (Antimicrobial Stewardship Team, AST 活動)

i. 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、感染症カンファレンスの際に感染症科医師と検討し、診療支援を行った。

- (1) TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬について、また、使用方法に疑問があれば AST 担当薬剤師が相談に応じた。使用状況を確認し、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視した。その際に解決できない症例については、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用

を推進した。

1. 広域抗菌薬長期投与者への介入

- (1) 2015 年 1 月より、カルバペネム系抗菌薬を 15 日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始している。カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム・ピペラシリン長期投与者は 88 件（延べ 56 人）、抗 MRSA 長期投与者 59 件（延べ 35 人）となり、合計件数は 147 件（延べ 91 人）であった。（令和 3 年度 89 例、令和 2 年度 89 例、令和元年（平成 31 年）度 79 例、平成 30 年度 77 例、平成 29 年度 72 例、平成 28 年度 49 例）。対象患者数は概ね横ばいであった。

2. 職員研修

- (1) 第 1 回 ICT・AST 合同講習会 『A S T の役割～北野病院の活動紹介を含めて～』
小林 和博 薬剤師, 高橋 有 薬剤師, 上田 覚 薬剤師
- (2) 第 2 回 ICT・AST 合同講習会 『職員が知っておくべき薬剤耐性菌』
小林 賢治 臨床検査部主任 e-ラーニング
- (3) 第 3 回 ICT・AST 合同講習会 『菌血症の診療（成人編）—抗菌薬適正使用のために—』
大島 正義 先生
- (4) 第 4 回 ICT・AST 合同講習会 『抗菌薬を上手に使いこなそう～抗菌薬 TDM ガイドラインの改訂ポイントを中心に～』
小林 和博 薬剤師, 高橋 有 薬剤師, 上田 覚 薬剤師

3. 感染症科業務

① 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日

血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、翌カンファレンスにて介入症例を検討の上、指導した。令和 4（2022）年度 580 件である（令和 3（2021）年度 581 件、令和 2（2020）年度 631 件、H31・R 元（2019）年度 977 件、H30（2018）年度 819 件、H29（2017）年度 487 件、H28（2016）年度 603 件、H27（2015）年度 232 件であった。

② 感染症診療対診＋随時コンサルテーション

主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、2022 年度は 135 件（2021 年度 101 件、2020 年度 122 件、2019 年度 87 件、2018 年度 108 件、2017 年度 108 件）の対診と随時コンサルテーションを受けた。

③ B 型肝炎防止プロジェクト 月 1 回

前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に 5895 件の検査警告メールを配信した（2021 年度 6596 件、2020 年度 6218 件、2019 年度 6467 件、2018 年度 4895 件）。また、随時質問を受けている。

対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド（中等度以上長期にわたる症例）投与患者のうち、HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体検査が未実施の患者

④ 入院中 TB アラート 月 1 回

長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医へレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告。2022年度は253件。

⑤ 梅毒アラート 月1回

2022年度は、年間28件（2021年度年間23件、2020年度30件）に対して梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。届け出されていない場合には保健所に届けるよう勧告した。

c. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

(1) 論文

原著

1. Masayuki Maeda, Takefumi Miyake, Ryo Inose, Satoru Ueda, Kenichi Matsugi, Yuichi Muraki and Takashi Kitahara
Bibliometric analysis of pharmacist's research on antimicrobial stewardship in Japan: an interrupted time series analysis on the implementation of the certification system for infection control pharmacists
Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences volume 7: 38 2021

(2) 学会発表

1. 小林 和博 他 「*Enterobacter* 属および *Klebsiella aerogenes* 菌血症に対する第三世代セファロスポリンの決定的治療法としての臨床的評価」第70回 日本化学療法学会西日本 2022年11月3日～2022年11月5日
2. 中島 俊樹 他「口演「排菌結核に対する入院前胸部画像スクリーニングの実態」第92回日本感染症学会西日本地方学術集会・第65回日本感染症学会中日本地方学術集会・第70回日本化学療法学会西日本支部総会 2022年11月3日～11月5日

(3) 院外活動

特になし

(4) 講演会

ICD認定更新用講習・教育企画、外部講師招聘

第20回北大阪感染症研究会 日時：2023年3月10日（金）17：50～20：00

場所：WEB開催

ICD認定更新用講習・教育企画、抗菌化学療法認定医・指導制度 教育企画、日本医師会生涯教育制度外部講師招聘

【一般演題】

座長：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 薬剤部

部長 尾上 雅英 先生

『 *Enterobacter* spp. および *Klebsiella aerogenes* 菌血症に対する第三世代セファロスポリンの確定療法として臨床評価』

演者：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 薬剤部・感染症科

主任 小林 和博 先生

【教育講演】

座長：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 呼吸器内科

主任部長 福井 基成 先生

『 当院での COVID -19 後遺症の診療経験 』

演者：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 呼吸器内科・感染症科

部長 丸毛 聡 先生

【特別講演】

座長：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 小児科・感染症科

部長 羽田 敦子 先生

『 薬剤耐性菌時代の感染症診療 』

演者：京都大学医学部附属病院 検査部 ・感染制御部

教授 長尾 美紀 先生